

平成30年度第1回富里市総合教育会議議事録

日 時 平成30年12月25日（火）

午前10時30分～午前11時10分

場 所 市役所本庁舎3階 第3会議室

1 開 会

（総務部長）

定刻となりましたので、これより平成30年度第1回富里市総合教育会議を開催させていただきます。本日、進行を務めさせていただきます総務部長の加藤でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議につきまして、傍聴人1名の申込みがございました。本日の協議事項につきましては設置要綱に定める非公開とするものではないものと思われると思います。つきましては傍聴人の入室を許可してよろしいでしょうか。

（委員）

同意。

（総務部長）

入室を許可します。

《傍聴人入室》

それでは、本日の会議は配布させていただいた会議次第に沿って進めさせていただきます。相川市長に御挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

（市長）

おはようございます。

年末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

皆様方のおかげで、富里の教育は良くなっていると感じておりますし、子供たちもすくすくと成長していることに、心から感謝申し上げます。

本日の協議事項は、「児童・生徒数の推移について」と「幼児教育について」となっていますので、これらの事項について御説明いただき、意見の交換をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(総務部長)

相川市長ありがとうございます。続きまして、國本教育長より御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(教育長)

本日は、本年度第1回目の総合教育会議を開催していただき、誠にありがとうございます。

今回は児童・生徒数の現状と推移、それと幼児教育の現状についてと言うことで、市長と教育長・教育委員が共通理解を図った上で、今後どのように対応していったら良いかということについて、理解を深め対応策を考えていきたい。その第1段階であると考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(総務部長)

教育長ありがとうございます。それでは、議事の進行につきましては、会議の主催者であります市長にお願いしたいと思います。

3 協議事項

(市長)

それでは、早速ですが協議事項に入らせていただきます。

まず協議事項(1)児童・生徒数の推移について説明をお願いします。

(教育長)

それでは児童・生徒数の推移について説明させていただきます。

資料1ページを御覧ください。1の学校別の児童・生徒数の推移でございますが、平成25年度から現在までの状況と平成35年度までの推計となっております。

小学校から進学する中学校との関係もございますので、各学園別に表示をしております。

下のグラフは学校全体と各学園の児童・生徒数の推移でございます。

傾向といたしましては、中央学園と南学園はわずかに減少するものの、ほぼ横ばいの傾向ですが、北学園は小学校が1校ということもあり、日吉台小の減少傾向がそのまま北学園の減少に結びついてきております。

次に2ページをご覧ください。

2ページには学園ごとに各学校の児童・生徒数の推移をグラフ化したものです。

まず、中央学園では根本名小の減少傾向が特徴となっています。

次に、北学園では日吉台小、富里北中が共に減少傾向を示しています。

次に、南学園はほぼ横ばい傾向といえます。

3 ページを御覧ください。

2 の各学校の学級数の推移でございますが、児童・生徒数に応じて変動するものとは思われますが、特別支援に在籍する児童・生徒数の推移については予測できないところもございますので、あくまで現状での見込みでございます。

若干、全体的には学級数も減少傾向にあるものと考えております。

4 ページは児童・生徒数と同様に学園ごとにグラフ化しておりますので参考までに御覧ください。

次に、2 ページにお戻りいただき、学校別の状況について少し詳しく説明させていただきます。

まず、中央学園の富里小ですが、過去5年間は増加傾向でしたが、5年後は減少傾向と推測されます。

富里第一小は現在までの減少からわずかですが増加に転じます。なお、平成27年度の児童数が大きく減少していますが、学区内の新1年生がこの年に特に少なかったものです。

根木名小は減少傾向が続いていますので今後の状況については注視してまいります。

なお、平成32年度からクラスの児童数が減少することからプールでの授業を民間による水泳指導教室に変更することも可能かと思われまいますので、今後の状況により検討してまいりたいと思います。

七栄小は増加傾向から減少に転じますが、増加のピークは平成32年度まで続くものと思われまいます。

なお、富里第一小と七栄小の学区につきましては、保護者の意向で学校を変更することが他の学区よりも多い学区であります。こうした地域の状況と今後の対応については状況を見ながら検討してまいりたいと考えております。

また、平成27年度の児童数が多くなっていますが、この年は単に新1年生の学区内の児童が多かったためでございます。

富里中はわずかですが増加傾向にあります。

次に北学園でございます。

日吉台小は減少傾向が続いています。

富里北中は日吉台小と同様減少傾向が続いています。日吉台小の進学先でも

ありますが私立中学校への進学も多いことから5名分を推計から減しています。
今後、日吉台小とともに状況を把握するとともに、将来的な展望として小中一貫校の対応なども含め、検討してまいりたいと思います。

次に、南学園でございます。

富里南小は減少から増加が見込まれます。

浩養小は若干ですが増加傾向となっておりますが、平成27年から小規模特認校ということで推計にも2名を加算しています。小規模特認校制度や浩養幼稚園との連携が図れている効果も表れているものと思われます。こうしたことから現状では以前危惧された複式学級への対応は、今のところないものと思われます。なお、クラス数については、今年度から特別支援教室が設置され、パーティションで仕切り、教室としておりますが、現在余裕教室が無いことから今後特別支援教室を増加する場合は、施設も含めて検討することが必要となります。

富里南中は少しずつですが減少傾向となります。

以上、各学校の状況を少し詳しく説明させていただきました。

なお、今回の推計につきましては、現在の人口を基に試算したもので、市で作成した他の人口推計とは異なる場合がございますので御了承ください。

児童・生徒数の推移につきましては以上のとおりでございます。

【意見交換】

(市長)

ありがとうございました。

皆様から何か質問・意見等ありましたらお願いいたします。

(會田委員)

北学園の日吉台小学校と富里北中学校の児童・生徒数の減少傾向が気がかりです。人間関係が固定化され、広がらなかったり、団体競技ができなくなったり、環境整備に手が回らないなどが、今後の課題と考えています。

(市長)

北学園については説明にもあったとおり小中一貫校も含めて、検討を進めていただければと思います。

他に何かありますか。無いようですので、協議事項（２）幼児教育について説明をお願いします。

（教育長）

続きまして、幼児教育について説明させていただきます。

現在の幼児教育の現状として、幼稚園の関係と幼小連携及び幼児教育無償化につきまして説明させていただきます。

資料２の１ページを御覧ください。

まず、１の就園率（１）の幼稚園就園率でございますが、富里市立幼稚園とこども園の１号認定、私立幼稚園の３歳から５歳までの合計の就園率の表となっております。

年齢が上がるにしたがって、就園率は高くなっております。

参考として、①の浩養幼稚園でございますが、５０人の定員に対しまして現在２８人の園児数となっており、富里幼稚園は１４０人の定員に対して１２４人の園児数となっております。

②は市内私立幼稚園の、太子・末広・日吉台幼稚園の各園の状況でございます。日吉台幼稚園については、就園児数は少ない状況ですが、園舎の建て替えなど園児募集に向けた新たな取組を行っていると聞いております。

全体的には少子化の影響もあることから、公立・私立とも定数までには至っていない状況でございます。

続きまして、（２）の保育園就園率でございますが、認定こども園の２号認定を含む、保育園の合計就園率につきましては、こちらは年齢が上がるごとに就園率は低くなっております。

幼児全体の就園率につきましては（１）の幼稚園と（２）の保育園を合計したものととなりますので、３歳では７１．３％、４歳では９２．９％、５歳では９５．２％となります。

この数値を見ますと、全体的には年齢が上がるほど就園率が高くなるものとなっておりますが、４歳、５歳と比較して３歳の就園率が低いことがわかります。

公立幼稚園では、３歳児は受け入れておりませんので、そのような状況も多少なりとも影響しているものと思われます。

次に２ページから４ページを御覧ください。

２の市内幼稚園でございますが、各幼稚園の概要となっておりますので参考

までに御覧ください。

続きまして、5ページの3の児童数の推移でございますが、0歳から5歳までの児童数の推移のグラフを御覧ください。グラフの下から0歳児で、一番上が5歳児となります。

3年後の児童数の推移ということで推計したのですが、徐々に減少となるものと推計しております。推計については小・中学校の児童・生徒数の推移と同様、今後の状況に留意してまいりたいと思います。

次に、4の幼小連携についてということで、現在の幼小連携の核となっております浩養幼稚園と浩養小学校の現状についてでございます。

今回は実際の現場の状況を把握し、現状のメリットや課題等について把握を行うため、幼稚園と小学校双方の職員に対してアンケート調査を実施しました。

先日集計結果が出ましたので御報告させていただきます。結果については6ページから8ページの浩養幼稚園運営に関するアンケート結果のとおりでございますので、御覧ください。

アンケート結果についての概要としましては、現状では幼稚園と小学校が良好な関係が保たれ、施設一体型の幼小連携のメリットが大きいものと職員も感じていることが確認できました。今後につきましては、児童・生徒数の推移の中で御説明いたしました、浩養小学校の余裕教室の課題なども含めまして、検討が必要と思われます。

5ページに戻りまして、5の幼児教育の無償化についてでございますが、幼稚園関係の事務の補助執行として対応いただいております健康福祉部子ども課より説明させていただきます。

(子ども課長)

私からは幼児教育無償化について、現在まで国から示されている事項について説明させていただきます。

資料につきましては、資料2の9ページから11ページまでとなります。

まず、資料2の9ページをご覧ください。

『幼児教育の無償化』の対象でございますが、3歳から5歳までの子ども、及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の子どもを対象としております。この子どもたちにつきましては、『幼稚園、保育所、認定こども園等の利用料』を無償化するものでございます。

なお、幼稚園の利用料につきましては、月額2万5千7百円を上限としております。

また、通園送迎費、食材費、行事費などの実費として徴収されている費用については、対象外とされます。

次に、10ページを御覧ください。

幼稚園の預かり保育についてでございますが、『幼稚園の預かり保育を利用する子ども』のうち、保育の必要性があると認定を受けた子どもにつきましては、認可保育所における保育料の全国平均額3万7千円と幼稚園保育料無償化の上限2万5千7百円との差額1万1千3百円までの範囲で利用料を無償化しております。

この他、『認可外保育施設等』につきましても、保育の必要性があると認定された子どもたちの利用料や、いわゆる『障害児通園施設』の利用料につきましても、無償化の対象とされます。

11ページは幼児教育無償化の具体的なイメージの例ということで参考までに御覧ください。

なお、具体的な手続き等につきましては、現在、国において検討中でありまして、実施時期につきましては、2019年10月1日を目指すこととされております。

幼児教育無償化につきましては、以上でございます。

（教育長）

ただいま、幼児教育の無償化について担当課より説明がございましたが、具体的な手続き等については現在国で検討中ということでございました。また、詳しい情報が入り次第、必要な対応等につきまして協議してまいりたいと考えております。

幼児教育に関する報告につきましては以上でございますが、幼児教育を取り巻く状況が変化していることから、幼小連携も含め、今後も関係部署との情報共有と連携を図ってまいりたいと思います。

（市長）

ありがとうございました。

皆さんから何かございますか。

（川口委員）

富里市では、村時代に私立の保育園が開園し、その後、公立幼稚園が開園し

たと記憶しております。その経緯について、幼稚園と保育園制度の観点から整理し、認定子ども園との関係についても考えていきたいと思います。

浩養幼稚園は、小学校と連携して環境的にも恵まれていると思うので、このまま続いてほしいという気持ちがあります。

また、浩養小学校では、余裕教室がないことから、特別支援学級が余裕スペースを間仕切りして使っている状況があります。小規模特認校としての視点からも、その影響について、今後考えていきたいと思います。

(市長)

ありがとうございます。

他にありますか。

(森田委員)

幼稚園は学校として教育を担い、保育園は福祉施設として保育を担う、この2つの制度は、これまでに長くあったものですが、その上で、認定こども園制度が創設されました。

富里市では、これまでの幼稚園、保育園のそれぞれ一園をこども園として開園しました。

開園の目的には、子育て家庭の就労等の変化に合わせて、園児定員の増や対象年齢を広げるなど、待機児童の解消を目指したこと、また保育機能と教育機能を併せ持つ認定こども園が民間にはない状況であったので、公共の役割を果たしたものと考えます。

富里市立の葉山こども園、向台こども園共に、これまでの園の特性を生かしながら、質の高い幼児教育と保育を総合的に提供し、市民のニーズに応え地域の子供、子育て支援の充実に向けてその役割を果たしていると思います。

それでは幼児教育の無償化が始まる中で、公立幼稚園は今後どのような役割を担っていくのでしょうか。その点については今後、勉強してまいりたいと思います。

(市長)

ありがとうございました。

他にありますか。

(田口委員)

幼児教育の無償化は、まだ不透明であることがわかりました。

仮に、幼児教育の無償化により、これまでは保育料の安い公立幼稚園に通わせていた保護者が、教育活動に特色がある私立幼稚園に魅力を感じ、通わせたいと思うことがあるのではないかという懸念もありますが、そういった場合に現在の公立幼稚園の特色の出し方等について今後勉強してまいりたいと思います。

(市長)

ありがとうございます。

他にありますか。

無償化については現時点で不透明なところが多いようですが、しっかりと準備を進めていただきたいと思います。

待機児童については引き続き減少に向けて努力していきます。

以上で協議事項は終了しましたので進行を事務局へお返しします。

(総務部長)

ありがとうございました。

それでは最後になりますが、次第の「４その他」になりますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。特に無いようでございますので以上をもちまして、平成３０年度第１回富里市総合教育会議を閉会いたします。